

「脳死臓器移植」 (新しい人権：自己決定権)

久保 隆 大分市立王子中学校教諭

1. 新聞活用のねらい

- ・新聞記事を教室での学習と実社会とをつなぐ「窓口」としてとらえ、社会的事象に対する興味・関心を持たせるとともに具体的な事実を通して学習理解を深めさせる。
- ・法改正による臓器提供の現状と課題について、さまざまな面から考え、主体的に判断する力を身につけさせる。

2. 指導計画

- ・新しい人権として認められている「自己決定権」の具体的な事例として扱う。
- ・「臓器提供について、自分ならどう意思表示できるか」という学習課題に対して、この1時間の授業の中で答えを導き出すのはなかなか難しいと考えられる。臓器移植についての調べ学習を設定することで自分の考えに根拠を持たせたい。
- ・法や制度など変化の激しい社会の中で、自分がこれからどう生きていくか絶えず問われる。この授業で扱う「臓器提供」の学習を通して、より良い社会のあり方を考えていくきっかけとしたい。

3. おもな学習活動 学習課題：「臓器提供について、自分ならどう意思表示できるか考えよう」

おもな学習活動	ねらい
①「臓器提供意思表示カード付きのリーフレット」を利用し、臓器移植についての関心を高める。	
②改正臓器移植法が施行され、日本の脳死臓器提供がどのように変わったかを読み取る。 ・「脳死」「心停止」の意味については、教師側が補足説明をする。	【資料①】から次のことを読み取る。 ○臓器提供を待ち続けている多数の移植希望患者 ○施行前と後での脳死臓器提供の変化 ○施行後の臓器提供の増加
③移植医療に対して、どのような権利があるのかを知る。	○臓器を提供する権利・提供しない権利 ○臓器の移植を受ける権利・受けない権利
④臓器提供について、自分ならどう意思表示できるかささまざまな立場から考え、自分の言葉でまとめる。 ・提供する側として ・受ける(受けた)側として ・それぞれの家族の立場として	○臓器移植を受けた側として、【資料②】から男性の心情を読み取る。
⑤臓器提供についての考えを発表し、さまざまな考え方があつたことを学ぶ。	

4. 評価の観点

- (関心・意欲・態度) 臓器移植について関心を持ち、新聞記事からさまざまなことを読み取ろうとしたか。
- (思考・判断・表現) 臓器提供について、さまざまな立場から考え、自分の言葉でまとめることができたか。
- (資料活用) 改正臓器移植法の施行前と後での脳死臓器提供の変化を読み取ることができたか、また、変化を理解できたか。

「自分なら」考えて

資料② 2010年(平成22年)9月14日 火曜日 夕刊

家族承諾だけの脳死臓器提供

「脳死」といって、脳が完全に機能しなくなる状態を指す。脳死が確定した患者は、呼吸器や心臓を人工的に維持し、臓器提供の機会を待つことになる。改正臓器移植法は、脳死が確定した患者の家族の承諾だけで臓器提供が可能になることを定めている。これにより、臓器提供の機会が増えることが期待されている。

法改正後、関心も高まり増加



徐々に高まる関心

臓器移植の関心は年々高まっています。改正臓器移植法の施行により、臓器提供の機会が増えることが期待されています。また、臓器移植の成功率も向上しています。これにより、臓器移植の関心はますます高まっています。

「ドナー両親決断すごい」

資料① 2010年(平成22年)10月17日 日曜日 朝刊



朝刊(左)と朝刊(右)と朝刊(中)の3枚の写真は、10月17日朝刊に掲載された「ドナー両親決断すごい」の記事の取材写真。

本人が拒絶しなければ、家庭の承諾で臓器提供が可能になる。改正臓器移植法は、脳死が確定した患者の家族の承諾だけで臓器提供が可能になることを定めている。これにより、臓器提供の機会が増えることが期待されている。

「ドナー両親決断すごい」という記事は、臓器提供の重要性と、家族の承諾が重要な役割を果たすことを伝えている。また、臓器提供の機会が増えることが期待されていることも伝えている。

素直にありがとう

「手術は感謝を込めて」といふ言葉が、臓器提供の重要性を伝える。また、臓器提供の機会が増えることが期待されていることも伝えている。